



「子どもと読書」

先月の20日(土)、『福井県幼小中PTA活動 地区別研修会』が、おおい町総合町民福祉センターにて開催されました。

美浜町PTA連合会と本郷小学校PTAの実践発表と併せて、「福井おはなしの会」の松原和子氏の講演『子どもと読書』を聞いたのですが、心に残ったので紹介させていただきます。

松原氏は、25年間の図書館司書としての経験から、子どもが本を読むことを楽しい・面白いと思えるようになるためには何が大切であるか、またなぜ子どもが本を読むと良いのか、子どもにどんな本を読み聞かせるとよいのかについて、語ってくださいました。

子どもの読書に効果的なこと

1. 耳からの読書が効果的
2. 本を選ぶ際にリストを活用する
…福井県教育庁生涯学習・
文化財課発行の冊子など
3. 読書を強要しない
・感想を求めない
・本を読んでいる大人の姿が
家庭の中にある環境をつくる



ハッピーエンドで終わる本を

ハッピーエンドで終わる本を読ませると良い。物語が子どもたちの心に住み着くからだ。

守ってくれる「安心感」、やればできる「自信」、やってみようと思う「希望」を与えてくれる。また、悪者は最後に退治される、という話は、苦難の末に勝ち取った幸せが心に残る。

現実の世界で人生の苦難に陥った時、読書を通して得た間接的な経験を、実体験でも生かそうと頑張れる。そのためにも「むかしばなし」を読ませると良い、というお話でした。

それ以外にも、以下の本を紹介されました。

おすすめの本

- ① おそうじをおぼえたがらない
リスのゲルランデ [5・6歳～]
- ② 絵解き ゾウの時間とネズミの時間
[中学年～]
- ③ 一つぶのお米 [低学年～]
- ④ モモ ミヒヤエル・エンデ
[4・5年～]
- ⑤ 三匹の子豚の本当の話
[低学年～]
- ⑥ 三匹のかわいいおおかみ
[5歳～]

なぜ本を読むと良いのか

読者(子ども)が想像力を働かせて、
本と一体化する



物語の中を生きることができる
(子どもの特権)



心の根っこをつくることができる



夏休み中、都合がつくよ
うでしたら、ぜひお子様と
一緒に読んでみてください。

7月の活動の様子



I学期間、毎朝見守りをしていただきました
(全校児童)



水辺の安全教室
(6年生)



コドモノ明日研究所(5・6年生)



ミミズコンポスト(6年生)



クラブ活動
(4~6年生)



水泳指導員授業(1~6年生)



読み聞かせボランティア
(全校児童)

地域の皆さん、
7月もいろいろとお世話になりました。
ありがとうございました。